

令和6年度 学校経営要綱

1 学校経営の基本構想

(1) 公教育としての学校

日本国憲法、教育基本法及び学校教育法等、教育関係諸法規に示された教育の理念に基づき、教育課程の基準である学習指導要領、福岡県及び太宰府市の教育施策や学校管理規則に則り公教育を行う。

(2) 現代社会の要請、教育動向に応える学校

これからの変化を予測することが困難な時代を生き抜くために、求められる資質・能力を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人材を育成すると共に、他者とより良い関係を築き、主体的に課題を解決していく力を育むことで、よりよく生きていく力を育成する。

(3) 信頼される学校

コミュニティスクールを推進し、学校・保護者・地域住民が一体となって未来を担う子どもたちを教育していく。また、人権・同和教育を基盤に据え、いじめや差別を見抜き、許さず、優しく思いやりのある人間性豊かな生徒の育成を目指す。

(4) 学業院訓の精神が教育の基本

学業院訓の精神を本校教育の基本として据え、人の恩に感謝し、母校や地域を愛し、志をもって自分を磨き、他者と協働してよりよく生きていく力を養い、日本の将来を担う人材を育成する。

2 学校の教育目標

(1) 基本学校の教育目標

志と感謝をもって自己を磨き、協働して未来を築く生徒の育成

(2) 学業院訓

- 生き生きとした幸せな人となろう、考える、見きわめる、働く、手をつなぐ
- 志を貫く人となろう、体を鍛え、氣力をねる、努力する
- 伝統をうち立てよう、こわすまい、汚すまい、築き上げよう

(3) めざす生徒像

- 物事をよく考え、判断し、多様な他者と協働して課題を解決する生徒 【知力・徳力・体力】
- 将来の目標に向かって意欲的に学び、自己の心身を鍛える生徒 【立志目標実現力】
- 自分が住む地域や学校を愛し、社会に貢献できる生徒 【社会貢献力】

(4) めざす学校像

- 歴史と伝統を重んじ、活気のある学校
- 環境美化の整った明るく、楽しく、美しい学校
- 地域に開かれ、地域に信頼され、地域に愛される学校

(5) めざす教師像

- 教育への情熱と使命感を持ち、責任感に溢れ、愛情豊かな教師
- 時代の変化に主体的に対応し、率先垂範・師弟同行を心がけ、自己研鑽を続ける教師
- 心身ともに健康で、チーム学業院として協調し、同じベクトルで指導できる教師
- 豊かな人間性や社会性を有し、保護者・地域に信頼される教師

(6) めざす地域像

- 目標を共有し、生徒の社会性を育む地域

- 主体的に生徒を活動させ、生徒のよさを認めて評価できる地域
- 生徒の安全を見守り、地域の未来のために生徒と家庭と協働できる地域

3 教育課題・経営課題

(1)教育課題

○学力の向上

- ・令和5年度は全国学力テストでは平均正答率と比較して、国語は106.8%、数学が109.8%、英語が103.1%であり、本校が掲げる目標値(110%)には達成していない。
- ・主体的に学び、学んだことを生かして根拠をもとに、より深く考えたり、自分の考えを表現したりする生徒の育成に努める。

○不登校兆候生徒・新規不登校生徒の減少

- ・不登校生徒(30日以上欠席、病気は除く)は令和元年度4.8%、2年度4.42%、3年度3.97%、4年度は5.47%、5年度は6.9%の高い水準である。
- ・不登校生徒に対して、全職員で様々な取り組みを行い、縮減に努める。
- ・新規の不登校生徒を出さないように人間関係作り等を活発に行う。

○人権・同和教育の推進

- ・人権・同和教育を本校の教育活動の基盤に据えて、各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間とも関連し、人権・同和教育を推進していきたい。

(2) 経営課題

○チーム型組織運営による主体的・効率的な校務の推進

- ・本校の教育課題の解決に向けて、主幹教諭を中心に業務の適切化・迅速化を図るとともに、学年(主任・副主任)、各事務分掌(主任・副主任)がそれぞれ協働・連携し、組織としての教職員集団の成熟度をより一層高める必要がある。

○個々の教職員の指導力の向上

- ・すべての教職員が学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、効果的な年間指導計画等の在り方や日々の授業等の教育課程上の位置づけを意識しながら教育活動相互の関係を捉える「カリキュラム・マネジメント力」の向上が必要である。

○校内OJT等による人材育成

- ・若年教員はもとより講師も含めて校内での人材育成の充実に向けて、校内OJTの日常化を図るとともに、主任・副主任を核として教員の指導力及びモチベーションの向上、並びにベテラン教員の技能の伝承等を図る必要がある。

○信頼される学校づくりの推進

- ・コロナ禍の中、地域との連携・協働がこれまでの取組から衰退している。今できることを確実に見極め、新たなコミュニティースクールを推進していく。

4 本年度の重点

(1)本年度の重点目標

つながる
努力・感動・思いやり・感謝でつながる生徒の育成

教師がつなぐのではなく、様々な教育活動の中で、努力・感謝・感動・思いやりでつながることを意識させ、生徒が主体的に学び・考え・行動し、いじめや差別をなくし、よりよい社会の一員として幸せな関係を築き、共にたくましく生き抜く力を育成する。

知力・徳力 ・体力	学びをつなげる	・教科を横断させたり、今までの学びをつないだりして、根拠を示しながら表現できる生徒の育成 ・健康な体を作る運動・食育・生活習慣を充実させ、心身共にたくましい生徒の育成
	友とつながる	・多様な友のよさを受け止め、いじめや差別をなくし、思いやりと感謝の心でつながることができる生徒の育成 ・生徒会活動の活性化及び行事や体験的な活動を活かした集団及び個々の人間関係形成力の育成
立志・ 目標実現力	未来につなげる	・自己の良さをとらえ、なりたい自分に向かって諦めずに努力し続ける生徒の育成
社会貢献力	社会とつながる	・ふるさと学習や地域貢献活動を通して、自分の住む町や学校を愛し、社会に貢献できる生徒の育成

(2)重点目標を達成するための経営の重点（方策1～4）

方策1 学びをつなげる<学力向上>

ア 学びの基盤作り

○安心して生活できる環境づくり

- ・「とびうめルール」の徹底指導（学習規律・生活規律）
- ・教師、生徒ともに人権を大事にした言語環境を整える。
- ・安心して学ぶことができる居場所作り、仲間作り
- ・生徒のよさが見える掲示物・環境の整備

○主体的に学ぶ基盤づくり

- ・自主学習ノート等を活用した家庭学習の充実を通して自己学習力を伸ばす。
- ・発表や表現活動を様々な場面で取り入れる。

○授業時間の弾力的な運用による学習効果

- ・思考力育成を目指した探究的活動、基礎学力定着のためのドリル学習等を実践する。
- ・週テストや単元テストを行い、学習の定着を図る。

イ 生徒が主体的に学ぶ授業改善の推進

- ・根拠をもとに考え、表現できる生徒を育成する授業改善及び教科部会を中心とした授業参観等の取組を通して、実践的授業力の向上を図る。
- ・毎時間、交流活動を位置づけ、多面的・多角的に思考させたり、書く活動を位置づけ、学んだことを表現させたりする。

ウ ICT教育の推進

- ・一人一台の端末環境でのICT機器を活用した教育活動を推進する。
- ・デジタル教科書・教材の効果を検証しつつ、学びの充実の観点から検討を行う。
- ・ICT推進教員を中心とした組織的な推進を行う。

方策2 友とつながる<仲間>

ア 望ましい人間関係をつくる、人権感覚を育む指導の充実

- ・道徳、人権・同和教育を充実させ、人権尊重の精神を基盤に、一人ひとりの違いを認め、自他を大切にし、他者とよりよくつながろうとする教育を推進する。
- ・いじめや差別をなくし、思いやりと感謝の心でつながることができる生徒を育成する。
- ・生徒会活動の活性化及び行事や体験的な活動を活かした集団及び個々の人間関係を築いていく力を育成する。
- ・小中連携のブロック学習会を通して、9年間の系統的な人権学習を計画的に推進し、自ら考え・感じ・行動できる生徒を育成する。
- ・授業だけでなく、日常的に人権感覚の育成を図る。

イ 職員研修の充実（人権・同和教育について）

- ・教師が差別の現実によく学ぶことを基本に据え、教職員研修の充実を図る。
- ・副読本「かがやき」「あおぞら」などの効果的な資料の活用を図り、計画的な人権学

- 習の充実を学年部、人権・同和教育部、南隣保館との協議を通して指導の充実を図る。
- ・教科の授業を通して基礎・基本の確実な定着、学び方の育成等、日常的な実践をもとに学級集団づくりの充実を図り、学力の保障、進路保障を目指す教育を学年部、中心に協議しながら進める。
- ・検証軸の生徒をもとに、学習指導方法・指導形態等の工夫改善を図る。
- ・道徳教育を充実させるために、道徳推進教師及び研究部を中心に研修を重ね、学年部で計画的に推進する。
- ウ 一人一人を大事にする特別支援教育の組織的な対応及び不登校生徒への支援
 - ・特別支援学級生徒の、個の教育的ニーズに応じた指導の充実を図るとともに、交流学級での生活や行事への参加を通して社会生活へ適応し自立できる能力を育成する。
 - ・生徒支援委員会を定期的実施し、不登校生徒や通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズを把握し、生徒の状況を共通理解し、小学校、関係機関等と連携して支援を進めていく。
 - ・特別支援学級、通級指導教室、ワラビー、つばさ教室等、生徒の実態に応じた学びの場を提供する。

方策3 未来につなげるく将来>

ア夢を語り合う教育の推進

- ・総合的な学習の時間におけるキャリア教育において、勤労観・職業観を育成し、自分の生き方を考え、語り合う教育活動の推進
 - 1年「こんな生き方をしたい」…夢を描く職業調べ・職業講話
 - 2年「こんな職業に就いてみたい」…夢を育てる職場体験
 - 3年「こんな道に進みたい」…夢を叶える進路学習（高校調べ、高校体験）
- ・キャリアパスポートを活用し、自己の良さをとらえ、なりたい自分に向かって努力し続ける生徒を育成する。
- ・課題を追究させながら、体験的な学習を通して、問題解決能力を高め、自己の生き方を考えさせる。

イ良さを認め合う

- ・掲示、HP、表彰等で良さを知らせ、認め合う環境を作る。
- ・行事、部活動、学級等の場において、良さを発揮できるようにする。

方策4 社会とつながるく地域>

アふるさと学習の充実

- ・本校の教育の指標である「学業院訓」を軸に、様々な教育活動を充実させる。
- ・宮村翁や学校をつくり育まれた多くの方々の思いに感謝し、共に「学業院愛」を育む教育を推進する。
- ・太宰府市ふるさと学習の推進
- ・2年生の大宰府市観光パンフレットづくり及び活用を通してふるさとを誇りに思う生徒を育成する。

イSDGsを軸とした、よりよい未来を創造する学習

- ・世界の動向を知り、自分ができる事について課題を設定し、その課題解決におけた考えをまとめたり、実践をしたりする学習を教科や総合的な学習の時間でしくむ。
- ・地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させ、地域を愛し、地域に愛され、地域に貢献できる生徒の育成に努める。

ウ地域貢献活動の推進

- ・地域貢献活動を通して、公園や公民館等の清掃、地域の歴史を学ぶことにより、地域住民としての地域を担う意識を高めていく。

(3) 経営を支える方策（方策5～8）

方策5 チーム型校務分掌組織

- ・教頭、主幹教諭、指導教諭、各主任・副主任・主事を中心に、各会議等を活性化させ、それぞれが役割を果たせるようなコーディネートに努める。
- ・主幹教諭、主任・副主任・主事のラインを明確にし、主体的に業務の推進を行う。
- ・定期的な会議により効率的に仕事を進めることができるようにする。

方策6 個々の指導力の向上・人材育成

- ・授業力や生徒指導力等を向上させるために年に1回授業を公開し互いに学び合う。
- ・学年部会・教科部会による協働・支援を進め、先輩教師からの助言を受けたり、技術等を伝承したりする。
- ・基本の徹底（挨拶、姿勢、時間、掃除、棚、整理整頓、靴箱、提出物、感謝）
- ・個に応じたきめ細かなチーム対応（特別支援教育、生徒指導、学習指導等）
- ・各教師が自ら進んで校内環境整備、言語環境の整備に努める。

方策7 信頼される学校づくり

- ・各自がスクールコンプライアンスの意識をもち、教育活動やサービスを徹底していく。
- ・報告、連絡、相談を徹底させ、組織的な対応を進める。
- ・学校評価の実施と公開を積極的に行う。
- ・学校HP・通信等を活用した情報公開と理解の促進を図る。

方策8 地域学校協働活動の推進

- ・学校・家庭・地域と協働した「地域学校協働活動」の推進
- ・「地域に開かれた教育課程」の充実・発展
- ・学校運営協議会及び学中ブロック（学中・水城小・国分小）の充実及び地域コーディネーターとの連携

(4) その他の方策

ア 働き方改革の推進

- ・教育活動に集中できるよう、あらゆる場において働き方改革を進める。
 - ・「太宰府市部活動指導の方針」に基づき、適正な指導を行う。
 - ・校務の情報化に努め、業務の軽減と効率化を進める。
 - ・超過勤務の縮減と定時退校日の確実な実施。
 - ・各教師にタイムマネジメントの力をつけることや業務の負担感を減少することに努める。
 - ・授業時間の弾力的運用により、教材研究や職員研修に充当し、業務の推進を図る。
-